

令和3年度防衛医科大学校・明治薬科大学合同多職種連携教育（IPE）  
（医学科5年生、看護学科3年生、薬学科5年生対象）を実施しました。

2022年3月3日

医療の多様化に伴い、医師、薬剤師、看護師が単独で良質な医療を提供することは困難となっています。各医療系職種は、その共通基盤を理解し、その上で各自の専門性を深め、他の職種と連携して活動することが極めて重要です。医学科学生、看護学科学生、薬学科学生には、この連携の重要性を理解し、将来の良好なチーム医療の担い手としての素養と自覚を養うことが求められています。この目的を達成するために行われるのが多職種連携教育（IPE）であり、我が国においても、すでに多くの医療系大学で取り入れられている教育手法です。しかしながら、COVID-19の流行のため、複数の大学が合同で対面でのIPEを実施することは困難な状況でした。そこで、昨年8月に防衛医科大学校と明治薬科大学は、医学科、看護学科、薬学科の1年生（総勢516名）を対象として、独自に開発したオンデマンド教材を用いた遠隔合同IPEを実施し、参加学生から高い評価を受けました。今回、両校は医学科5年生74名、看護学科3年生115名、薬学科5年生107名を対象として、明治薬科大学のMicrosoft Teamsを用いた双方向授業システムを活用することで、完全オンライン形式によるIPEを実施しましたので報告いたします。

合同IPEは、2月18日に午前と午後の2部に分けて実施されました。学生は医学科2名、看護学科3～4名、薬学科2～3名からなる計8名の37グループに分かれ、それぞれのグループをファシリテータ1名が担当いたしました。ファシリテータとしては医学科から9名、看護学科から14名、薬学科から14名の教員が参加しております。学生はそれぞれの自宅あるいは学生舎から、ファシリテータも自宅あるいは学内の個室から参加することで、完全リモート化を実現しております。当日は、本校から教員1名が明治薬科大学に派遣され、司会進行と両校間の連絡およびトラブル対応にあたりました。本校では、学内参加者用の合同IPE実施本部を7号館に設置し、医学科と看護学科の合同IPE委員各1名および教務課事務官が常駐して、ファシリテータが参加している各個室の定期的な巡回ならびにトラブル対応を行いました。さらに明治薬科大学学術情報課がシステムの稼働状況を常時監視するとともに、すべての参加者からのオンライン相談を受けることで、万全のバックアップ体制をとりました。



(左) 明治薬科大学合同IPE実施本部  
(中) 防衛医科大学校合同IPE実施本部  
(右) 明治薬科大学学術情報課

午前午後どちらの部も、まず全学生とファシリテータが参加する全体セッションが実施されました。最初に、越前 宏俊 明治薬科大学学長と櫻井 裕 防衛医科大学校教育担当副校長から合同IPEおよび両校の連携の意義についての挨拶があり、次に、ice breakingの一環として全ファシリテータを紹介するビデオが上映されました。合同IPEの流れについての簡単な説明の後、参加者はそれぞれのグループに分かれ、グループ別セッションを開始いたしました。



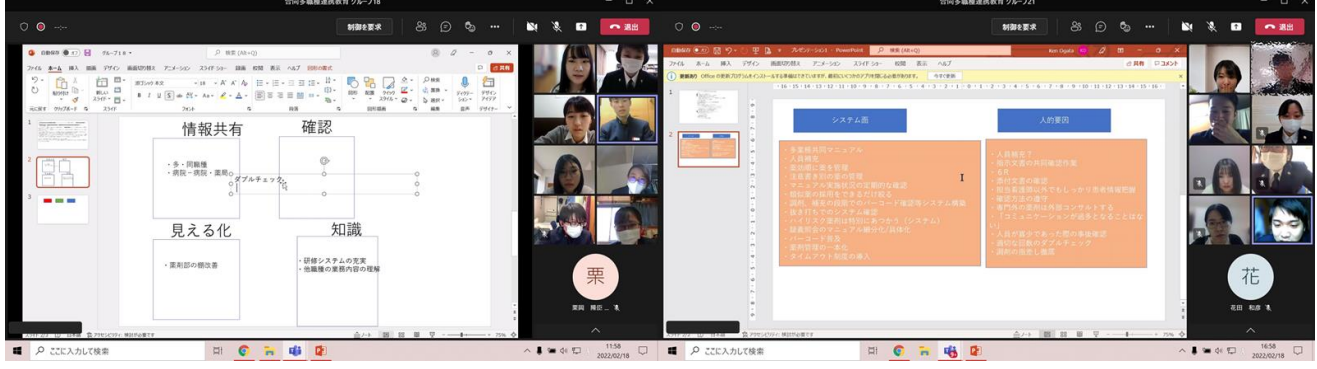
代表者挨拶 (左) 越前 宏俊 明治薬科大学学長  
(右) 櫻井 裕 防衛医科大学校教育担当副校長

今回のIPEの特徴は、学生が各自で医療事故の例について事前学習を行い、事例の内容、発生原因の分析、予防策および考察をプレゼンテーションできるパワーポイントスライドを作成し、実習前に担当ファシリテータに提出することにあります。こうすることで、全ての学生が当日に平等に発表の機会を持ち、積極的に実習に参加することが可能になります。ファシリテータ主導で自己紹介が実施された後に、いよいよ学生が発表に挑みました。発表順はファシリテータの指名で決まり、また各発表では別の学生1名が司会者役として指名されます。発表者は事前に作成したパワーポイントスライドを用いて5分以上6分以内でプレゼンテーションを行い、その後司会者役の学生が主導してdiscussionを6分以内で実施しました。学生は慣れないオンライン会議の難しさを感じながらも、思ったより活発に議論できることを体験できた様です。



学生による発表 (左) グループ1 : 担当ファシリテータ 薬学科 三田 充男 先生  
(右) グループ30 : 担当ファシリテータ 看護学科 高橋 はるな 先生

グループ別セッションの後半には1時間のグループワークが実施されました。課題は医療事故防止策です。最初に、学生間の話し合いでリーダー、書記およびproductの発表者を決めました。さすがに、この時点では学生は打ち解けておりましたが、オンラインでこういった役決めをする経験はほとんどないため、苦戦したグループが多かった様です。中にはオンラインじゃんけんといった工夫をしたグループもありました。リーダーの司会のもと、学生は医療事故防止につながることを次々に挙げていき、書記が画面共有しているパワーポイントに書き込みました。KJ法を参考にした手法でしたが、やはりオンラインでの実施はかなり難しかった様です。しかしながら、どのグループもメンバーで協力しながら試行錯誤の上、最終的には制限時間内に医療事故防止策を立派なproductとして発表することができました。皆で協力し知恵を絞ることで問題を解決できること、そして、それはオンラインでも十分に可能であることが理解できたのではないのでしょうか。



グループワーク (左) グループ18 : 担当ファシリテータ 医学科 栗岡 隆臣 先生  
(右) グループ21 : 担当ファシリテータ 薬学科 花田 和彦 先生

グループ別セッション終了後は、再度全体セッションが実施されました。合同IPE実施責任者である小林 靖 防衛医科大学校教務部長と三田 充男 明治薬科大学副学長より、学生同士がオンラインでもしっかりとコミュニケーションをとり、議論できたことを高く評価するとともに、この体験を将来の良好な多職種連携に活かして欲しい旨、講評がありました。最後に、実習後に提出する課題（アンケート、振り返り、感想を所定のエクセルファイルに記入してファシリテータに提出）の説明があり、合同IPEが終了いたしました。



実施責任者講評 (左) 小林 靖 防衛医科大学校教務部長  
(中) 三田 充男 明治薬科大学副学長  
司会進行 (右) 佐藤 全伯 防衛医科大学校教務部医学教育開発官付

今後、IPEの遠隔実施の需要はますます高まるものと思われませんが、COVID-19がいつ収束するか先が見えない状況下で、本校と明治薬科大学で実施した多くの学生参加による完全オンライン形式の手法は前例がないものであり、他の医療系大学にとっても、大いに参考になるものと思われま。また、この合同IPEは、IPEの本来の目的に加えて、今後ますますリモート化が進む社会で仕事をする学生が身に付けるべきリモート環境におけるコミュニケーション能力を養う新しい形の画期的な実習と考えます。この合同IPEを通して、職種間の良好なコミュニケーションにより互いの患者へのアプローチの高度を知り、足りない部分は助言し合う、相反する部分は議論してより良い選択肢をとることにより、それぞれの高度な専門性が真に発揮される医療につながることを願っております。

令和3年度防衛医科大学校・明治薬科大学合同IPEファシリテータ（50音順、敬称略）

荒科 悠子	栗岡 隆臣	永井 純子	三田 充男
石川 孝子	小林 真一	仁科 聖子	光橋 さおり
石渡 遼	小林 紘樹	野口 宣人	村上 希
伊藤 正孝	佐藤 昭太	野澤 玲子	安 武夫
岩崎 寿光	下川 健一	花田 和彦	山崎 紀子
浦出 美緒	菅野 敦之	馬場 正樹	若林 千春
大島 直紀	鈴木 陽介	伴 佳子	渡邊 美奈子
大野 恵子	高橋 はるな	東 誉人	
海津 真里子	高橋 雅弘	町田 いづみ	
清住 哲郎	田中 靖子	三上 由美子	

防衛医科大学校・明治薬科大学合同IPE委員（50音順、敬称略）

石塚 俊晶	中村 昌子
越前 宏俊	西岡 笑子
栗原 勲	花田 和彦
小林 靖	三田 充男
佐藤 全伯	安 武夫
兔川 忠靖	山崎 紀子